

国際・交流委員会 基本方針（案）

国際・交流室 国際・交流委員会
委員長 古賀 智博

1 昨今、高齢化や人口減少、地域格差による都心部への人財の流出などの影響により、地
2 域に住まわれる在留外国人の増加が予測されている中、多文化共生を目指した地域づくり
3 に取り組む機運が高まっています。グローバル社会における多様性を受け入れ、地域に住
4 み暮らす人びとにとって、明るい豊かな社会となるよう我々が地域社会と密接な交流を深
5 め知識を醸成していく必要があります。

6 まずは、諸先輩が1985年から継続されてきた姉妹JCである社団法人台南市新營国
7 際青年商會との交流が本年度で38年目を迎え、堅固なる友情をさらに深めるために、相
8 互交流に関わる課題解決に取り組み、**より一層楽しみを持って参加できる相互交流にしま**
9 **す。**そして、文化、歴史、価値観の違いを、広く深く理解し合える国際交流とするために、
10 個々においても友情が芽生える訪問事業を企画し、佐賀青年会議所メンバーに積極的な参
11 画を促すとともに、国際意識を高める機会を創出します。さらに、国際化が進む地域にお
12 いて**明るい豊かな社会を実現**していくために、身近に住み暮らす在留外国人の方とレクリ
13 エーションを通じた例会等を行い、**多文化共生への理解を深め**活気溢れる地域づくりにつ
14 なげます。また、国内開催であるASPAC堺高石大会での近隣諸国との交流を**より多く**
15 **のメンバーで共有する**ために、日本青年会議所等から発信される情報を集約した周知活動
16 を行い、身近で体感できる国際経験を積**み**友情の輪を広げ青年会議所活動の一助とします。

17 我々佐賀青年会議所はこれまで以上に国際社会・地域社会への貢献と交流を通じた活動
18 を行い、一人ひとりの違いを柔軟に受入れ、地域の方々と共に皆が手を取り合い、多様性
19 を活かした佐賀を創造していき、「修練」「奉仕」「友情」の三信条のもと、「銀鱗躍動」の
20 ように地域で勢いよく輝き続ける団体を目指します。

[事業計画]

- 24 1. 新營JC訪問交流の企画・運営（9月）
- 25 2. シニア総会の参加者支援（1月）
- 26 3. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 27 4. 例会の企画・運営（3月・11月）
- 28 5. ASPAC参加者への支援（6月）
- 29 6. 河川清掃（10月）
- 30 7. JCI世界会議参加者への支援（11月）
- 31 8. 会員拡大 拡大目標 委員会8名（全体40名）